

平成 19 年 9 月 22 日 阪井寛志

日本物理学会 2007 年秋季大会（北海道大学札幌キャンパス）  
ビーム物理領域インフォーマルミーティング議事録

日時：2007 年 9 月 22 日（月） 18 時 00 分～20 時 00 分

場所：北海道大学札幌キャンパス（ZG 会場）

出席者（敬称略）：

田島（領域代表）、鎌田（領域副代表）、柏木、阪井、栗木、神門、岩下、野田、  
中村（剛）、平田、熊谷、小山、森、大熊、山本、白井、宮本、上坂

（内容）

- 1．前回の議事録の確認
- 2．物理学会の領域代表および世話人について
- 3．物理学会の領域活動について
- 4．ビーム物理研究会関連
- 5．ビーム物理研究会組織関連
- 6．その他

(はじめに)

ビーム物理研究会が今年は行われなかったということで今回に関してはインフォーマルミーティングをビーム物理研究会の総会として行なうことにした。  
ミーティングの司会進行は柏木氏が行なった。

### 1. 前回の議事録の確認

- 別添 1 の前回議事録の確認を行った。議事録は homepage に載せているので確認下さい。

### 2. 物理学会の領域代表および世話人について

- 領域代表、副代表の任期を確認した。

期間	領域代表	領域副代表
2006年10月--2008年9月	田島 俊樹	鎌田 進

任期が 2008 年 9 月までなので、次期副代表を選する必要がある。

次回 2008 年の春のビーム物理研究会総会に、会長と副会長が相談して次期副代表候補を推薦する。

- 領域世話人の確認と次期領域世話人の選出を行なった。

期間	領域世話人
2006年5月 - 2007年4月	小瀧 秀行
2006年11月 - 2007年10月	柏木 茂(現職)
2007年5月 - 2008年4月	阪井 寛志(現職)
2007年11月 - 2008年10月	神門 正城

次期世話人(期間：2008年5月-2009年4月)に鎌田副代表から本人の了承のもと佐藤政則(KEK)氏の推薦が行なわれ、本ミーティングにて了承された。

佐藤氏の物理学会への連絡を10月13日まで行う。(阪井)

- 領域世話人任期についての申し合わせの確認を行なった。

物理学会領域世話人任期(1年間)だけでは年会の対応の引継ぎなどが非常に難しいため、任期前の半年は見習いとして、任期後の半年はアドバイザーとして世話人活動に参加を願うよう提案が行なわれた。本ミーティングにて了承された。

### 3. 物理学会の領域活動について

- 2008年3月の物理学会での合同セッションについて。(2007/9/5締切)  
領域1、領域2との合同セッションは引き続き行う。  
素粒子実験領域との合同セッションを新たに設ける。(阪井担当)
- 合同シンポジウムについて(申し込み期間10/10~11/14、物性領域10/31締切)  
領域1との合同シンポジウムを開催してはどうか?案としては

レーザー加速用の駆動レーザー（レーザーそのもの）

新しい加速器ベースの光源（XFEL, ERL など）

他、イオントラップのレーザー冷却なども領域1と overlap しているのではないかと  
との意見があり、まずは研究会の全員の意見を求めることにした。

領域1との交渉はまずは田島領域長が行う。

また他領域のシンポジウムや招待講演の意見も含めて、メールにて研究会の意見を  
10/15（月）までに求める。（担当阪井）。その時に出了たテーマを10/15（月）まで  
に田島領域長へ送ることにする。

- その他

募集要項掲載用キーワードについて、追加削除等の意見は、随時世話人に知らせること。

- 若手奨励賞について

若手奨励賞は研究会の活動ではなく、領域の活動であることの再確認。

次回の若手奨励賞の選考については、交代委員の選出を鎌田副代表が取りまとめ、  
選考作業が始まっている。

- 2008年3月の物理学会以降の開催方針について

他の領域との合同セッションとの継続は現在の合同セッションの集まり状況を見て  
判断する。今回の応募者状況は

領域1：0人

領域2：7人

であり、次回でも領域1で人数が集まらなければ領域1との合同セッションの開催  
を無くすことも考える。

#### 4. ビーム物理研究会関連

- 次回のビーム物理研究会について

Spring-8 にて行なう。（大熊氏了承済）スケジュールは2008年秋頃とするが、  
詳細は大熊氏が決める。また実行の担当は今回は富澤氏にお願いした。

- 科研費について

平田氏より平成20年～21年度の科研費に時限付き分科細目に「量子ビーム」が  
設定された。今秋からの公募なので、ビーム物理の会員の皆さんに広く知らせる  
欲しい。田島会長の名前でビーム物理研究会会員にメールを回す。（阪井）

- 次回総会について

2008年3月春の物理学会のインフォーマルミーティングをビーム物理研究会の  
総会とする。また、次項目でも述べるが、ここで会則の見直しを行う。

#### 5. ビーム物理研究会組織関連

- 会員名簿とメーリングリストは中村（剛）氏が今後一括して管理する。（了承済）
- 会則見直しについて  
鎌田副代表から以下の趣旨説明があった。  
物理学会ビーム物理領域発足以降、現在の会則が運営実態と整合しない部分が生じており、会則の見直しが必要である。基本的方向として、研究会の活動方針を議論する拡大世話人会と、領域活動などの実務を担う執行部とを別個に設けた組織を検討したい。  
若干の意見交換を経て、会則改定の基本的な方向性を了承した。
- 会則成文化作業について  
今後、拡大世話人会におけるメール交換等を中心に、会則の成文化作業を進め、次回総会において、改定会則（案）を諮る。これについては平田氏に取り纏めをお願いする。
- 当面の執行部は「会長（田島氏）、副会長（鎌田氏、野田氏）、領域世話人（柏木氏、阪井、神門氏、佐藤（政則）氏）、広報（小方氏）、メール名簿管理（中村氏）、研究会担当（富澤氏）」とする。
- 拡大世話人について  
今回のインフォーマルミーティングを総会とするに伴い、拡大世話人の選出が必要との意見があり、拡大世話人の確認を行った。まず、領域世話人は拡大世話人に含まれることを確認した。また、大幅な拡大世話人の選出は来年3月以降に行うこととし、その間の拡大世話人会活動を行う上で必要と考えられる方数名の選出が行われた。その内、大熊氏に関しては本総会内で了承され、欠席者については担当を決め本人の了承を取り付けることとした。また、連絡が取れない方の意向も確認することとした。メンバー確定後に、拡大世話人メーリングリストを立ち上げる事を中村氏にお願いした。

## 6. その他

- 物理学会キャリア支援センター活動と医学物理について上坂氏から報告があった。  
ポストク問題とも関係しており、物理分野からの医学物理士への育成などを念頭に物理学会が支援することとなった。ビーム物理領域でも支援する方向で検討が行われた。
- 野田氏からビーム物理領域が関係する分野で2010年にIPAC(International Particle Accelerator Conference)の開催が京都で予定されている。ビーム物理領域が中心となり物理学会にも加速器学会等との協力のもとで、主体的な取り組みをお願いしたいとの申し出があり、ビーム物理領域としては了承された。
- またEPAC'08へのawardの呼びかけがあり、既にビーム物理のメーリングリストで周知を図ったところ、応募があったとの報告があった。